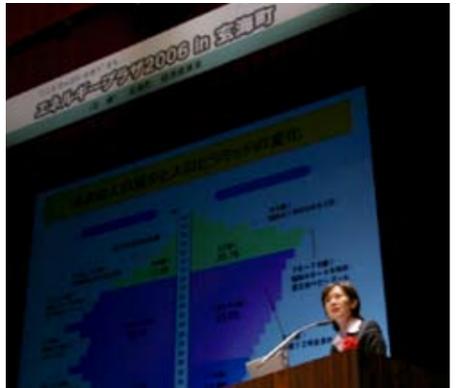


# 「エネルギープラザ2006 in 玄海町」を開催しました

お問い合わせ先  
財)電源地域振興センター 普及啓発課  
電話：03・5405・8128  
e-mail：fukyu@dengen.or.jp

平成十八年十月三十一日(火)から十一月二日(木)までの三日間、佐賀県玄海町において「エネルギープラザ2006 in 玄海町(主催：玄海町、経済産業省 後援：佐賀県、唐津市 実施主体：財)電源地域振興センター」を開催しました。今回のエネルギープラザのテーマは、「地域力―自立と協働」と設定。同テーマに重点をおいたプログラムを展開しました。



講演する白石氏

初日の開会式・講演会は約四五〇名の参加者が集まるなか、はじめに主催者を代表して岸本英雄玄海町長と高木美智代経済産業大臣政務官が、続いて後援者を代表して川上義幸佐賀県副知事と坂井俊之唐津市長があいさつを行いました。



岸本玄海町長 高木経済産業大臣政務官

その後、東洋大学経済学部教授の白石真澄氏が「少子高齢化時代に求められるまちづくり」と題して講演。白

石氏は、「将来、高齢化は進んでもその八割はまだ元気。決して社会的弱者ではない。そういった方の能力をいかに活用していくかが大切」とした上で、これからの都市と農山漁村の交流の意義や効果を説明しました。さらに、情報化と高齢化をうまく融合させて農業を活性化させている愛媛県内子町の事例をはじめ、全国の個性ある地域の取り組み事例を紹介した後、「その地域の間人だけを考えるのではなく、外部の目を取り入れて市場をしっかりと見極めてほしい。そして、効果的な方法で情報発信し、新しく来る人のために受け入れ体制を構築してほしい」と訴えました。



地域ブランド開発・販路拡大分科会

出した上で今後の地域振興へ向けての方策を打ち出した。各会場では、全国的な取組み事例



産学官連携検討分科会

や講師からの事前質問を基に、その手法やノウハウについて活発な意見交換が行われました。

三日目は、実地研修(施設見学会)を実施。九州電力株式会社玄海原子力発電所や玄海エネルギーパーク、玄海町を代表する風景「浜野浦の棚田」、玄海町民会館・社会体育館や野球場、総合運動場など、三法交付金施設から構成される「いこいの広場」を見学した後、風光明媚な東松浦半島を巡って唐津市内へ戻り、エネルギープラザは三日間の幕を閉じました。

エネルギープラザを一過性のものとしたために、今後玄海町におけるフォローアップ(検討会C)や、参加者モニタリングを実施いたします。関係者の皆さまにおかれましては、引き続き当事業の推進にご協力いただきますようお願い申し上げます。

## あなたの地域の担い手づくり 最近の研修事業から

(財)電源地域振興センターでは、電源地域の長期的・自立的な振興を担う人材の育成を目的に研修事業を行っています。今年度は国内外合わせて千八件の様々なテーマを設定、先進地事例の紹介などを交えながら、実務的な研修を実施しています。

今回は平成十八年九月七日(木)・八日(金)にかけて当センターで行われました研修No.16「中心市街地活性化対策を考える」の中から、初日の研修模様をご紹介します。

中心市街地の活性化に資する手法をさまざまな切り口から学ぶ本研修では、まず、東北ジャイロ流通研究所所長 小柳剛昭氏が「あなたのまちでもできる中心市街地活性化―視点を交えれば針路が見える―」と題して講演。小柳氏は「購買の基本は価格以上の大きな満足を得ることができれば消費者は『リピーター』となり、さらには『口コミ』によって宣伝してくれます。そうなるには消費者のホンネをとらえること、消費者を主役にする『演出(物語)』を考えることが必要となります。例えば『鮮魚の特売日は、地域のもえるゴミの日の前日にする』といった『売った後』に至るまで物語を考える発想が必要なのです」。

さらに、「消費者のニーズ(日常生活に必要だから)に対応するだけではなく、ウォンツ(そういう商品ならぜひほしい)に対応する店づくり・ウォン

ツを提案できる商店街づくりを目指すことが求められます。『店逸品運動―静岡県静岡市の呉服町名店街』や『北斎と栗のまち―長野県小布施町』は、消費者の満足度が高い事例として有名です」と述べ、「小さな欠陥の修正や小さな満足の積み重ねがいずれ大きな成果に繋がっていく」と受講者にエールを送り、締めくくりました。

講演後は、参加者がグループに分かれ、「まちなか再点検―あら探し、宝探しで中心市街地を点検し、評価してみよう―」「まちなか活性化バーチャル体験―アイデアを出し合って活性化を仮想体験―そしてにぎわいが生まれる快感を自分のまちで実践しよう―」と題して、自分たちの町を見直し、消費者のホンネやニーズをとらえるワークショップを実施しました。

当日は、全国の電源市町村から四十九名の参加があり、講演・ワークショップ後の情報交流会など、大変美りの多い研修となりました。

お問い合わせ先  
財)電源地域振興センター 人材育成課  
電話：03・5405・8114  
e-mail：jinzai@dengen.or.jp

## 「エネルギー見学会&交流セミナー」を玄海町で実施しました

当センターは、九州経済産業局による公募事業を受託し、平成十八年十月十五日(日)、佐賀県玄海町で「エネルギー見学会&交流セミナー」を実施しました。電気の生産地である玄海町と大規模な消費地である福岡市・長崎市の小学五・六年生とその保護者五十七組百十九名が参加し、エネルギーや環境問題について学んでいただきました。

まずは九州電力(株)玄海エネルギーパークを見学し、エネルギーや原子力について学んだ後、地元地域おこしに積極的に取り組んでいる「玄起海」の協力を得て、佐賀牛や鯛など地元の食材を使ってバーベキューランチを行い、参加



玄海エネルギーパークで原子力発電について学習



バーベキューでは佐賀牛や鯛の育て方を学び、味わう

者はその味に舌鼓を打っていました。また、玄海町をテーマとしたクイズ大会なども大変盛況でした。

その後はサイエンスショーで科学の不思議を体験したほか、手回し発電機を制作し、鉄道模型を走らせてタイムを競うなど、多彩な内容のプログラムに子ども達は目を輝かせていました。

当センターでは今後も、見学会や交流会などを企画・運営することを通じて、地域振興のお手伝いをして参ります。

お問い合わせ先  
財)電源地域振興センター 調査企画課  
電話：03・5405・8112  
e-mail：chousakikaku@dengen.or.jp

人事往来

●電源立地都道府県知事(平成18年8月～10月選挙分)

県名	氏名	当選月日
長野	村井 仁	8月6日
香川	真鍋 武紀	8月27日

●電源地域市町村首長(平成18年8月～10月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
泰阜村(長野)	松島 貞治	8月1日
高山市(岐阜)	土野 守	8月20日
聖籠町(新潟)	渡邊 廣吉	8月22日
平泉町(岩手)	高橋 一男	8月22日
入善町(富山)	米澤 政明	8月22日
新庄村(岡山)	笹野 寛	8月27日
長柄町(千葉)	成嶋 尚武	8月27日
球磨村(熊本)	柳詰 恒雄	8月29日
新地町(福島)	加藤 憲郎	8月29日
飯山市(長野)	石田 正人	9月3日
川棚町(長崎)	竹村 一義	9月5日
高砂市(兵庫)	岡 恒雄	9月10日
波佐見町(長崎)	一瀬 政太	9月10日
最上町(山形)	高橋 重美	9月10日
七ヶ宿町(宮城)	梅津 輝雄	9月24日
日高町(和歌山)	中 善夫	9月26日
深川市(北海道)	河野 順吉	10月1日
金山町(福島)	長谷川 律夫	10月1日
御浜町(三重)	古川 弘典	10月1日
木祖村(長野)	栗屋 徳也	10月3日
日之影町(宮崎)	津隈 一成	10月17日
君津市(千葉)	鈴木 洋邦	10月22日
可見市(岐阜)	山田 豊	10月22日
田布施町(山口)	長信 正治	10月22日
栗石町(岩手)	中屋敷 十	10月22日

●「伊佐の焼酎豚」はとても美味しそうでした。どこにもない美味しいものを作ろうという思いと様々な人の苦労には頭が下がります。私の町豊岡市出石町は皿そばをはじめ、そばを使った饅頭やかきんどう、ソフトクリーム等がとっても美味しいです。

(兵庫県豊岡市 女性)

●「二村一文化」で粘り強く「写真の町」づくりを推進している東川町を紹介したVol.4の「電源地域のサ

クスストーリー」を読んで、写真という切り口は日本の風景を残すこともできるので、とてもいいことだと思いました。

(福井県高浜町 男性)

●「いきいき電源地域」を読み、全国には自分の知らない個性的なイベントがあるのだと分かりました。私の町では「YOSAKOIさせぼ」で街を活性化しようという商店街が団結して頑張っています。

(長崎県佐世保市 女性)

●私の町は漫画「土佐の一本釣り」で知られた鯉の町です。平成十八年一月一日、太平洋に面した旧中土佐町と四万十川が流れる旧大野見村が合併し、新中土佐町となりました。小さな町ですが、このような自然資源を生かした新しいまちづ

「プナッめんとエリンギのセット」に関するお問い合わせ先

十津川村役場 観光課  
奈良県吉野郡十津川村大字小原 三五一  
TEL: 0746-6210001



今号の「電源地域のサクスストーリー」で紹介した奈良県十津川村のご厚意により、「プナッめんとエリンギのセット」を五名様にプレゼントしました。とじ込みのアンケートハガキに本紙へのご意見、ご感想などをご記入の上、平成十九年一月十九日(消印有効)までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【読者プレゼント】

市町村合併が多くなる地域で行われましたが、合併しなくても輝いている自治体、そしてそのような自治体との連携を取り上げてください。

(奈良県野迫川村 男性)

【編集後記】

本号で取り上げました奈良県十津川村の特集記事の中で、「大雨による崖崩れの被害をひとつの警告と受け止め、ただ(源泉かけ流し温泉郷や世界遺産として)注目されるだけでなく、次につなげていく活動をしなくてはいけない」という十津川村役場・観光課課長補佐である増谷さんの言葉がありました。

また、名脇役としてご登場いただいた岩本さんご家族にとりましても、家や畑とともに生活の一部である大切な道が、世界遺産に登録されたことにより、日常生活にいろいろの変化が表れたことと察します。しかし、これをよい変化と捉え、「十津川村を訪れて古道を歩いた人々が、『来て良かった』と思う感動体験を少しでも持ち帰ってほしい」と湧き水の提供を自ら進んで行いました。

お二人の発想は「変化をプラスに変える」というものでした。生き残りかけた危機感と、行政と住民の前向きな姿勢が、村再生の大きな原動力になっているのではないのでしょうか。

「ほんもの」へのこだわりをしっかりと持ち、社会が求めるものへ向けて、楽しみながら取り組んでいる皆さんの表情は明るい笑顔で、まさに「笑う門には福来る」なのだと思わずにはいられませんでした。編集室では今後も元気で明るいまちづくりを目指す人々に焦点を当て、よりよい誌面づくりに励んでまいります。

(S)

電気のふるさと 産品自慢

伝統の技 会津桐製品と編み組細工

お問い合わせはこちら → 三島町役場 産業建設課 産業係  
TEL: 0241-48-5533

福島県 三島町



会津桐ダンス

三島町は、福島県の西部、只見川流域に位置する人口2,200人の小さな町で、全域に山林が広がり、古くから「会津桐」の産地として知られています。

「会津桐」は燃えにくく、湿気に強い性質があるため、大切な衣類などを守るタンスの素材に使われることで有名です。また、非常に軽くやわらかい木材であることから、

タンスだけでなく、ベビー用品や玩具の材料として注目されているほか、スピーカーや楽器の材料としても研究され、商品化されています。

冬期、三島町の地域性を一言で言えば「豪雪」。深い雪に覆われる中、冬の手仕事として継承されてきたのが、日常生活に用いる

カゴやザルなどの「編み組細工」で、野山から採取されるヒロロ(和名:ミヤマカンズゲ・オクノカンスゲ)、山ブドウ蔓の皮やマタタビ蔓などの植物を素材にして作られています。その技術は縄文晩期(2500年前)までさかのぼることができ、同町の荒屋敷遺跡からは縄や各種編組等の約1万点の籠類が出土しています。現在では、現代の生活に使えるように工夫された手提げバッグや小物などの製品が製作されており、堅牢で素朴な手編みの良さが特徴です。



平成15年には「奥会津編み組細工」として国の伝統的工芸品に指定されました。

電気のふるさと 産品自慢

和菓子でないよ いな饅頭

お問い合わせはこちら → 蟹江町観光協会事務局 TEL: 0567-95-1111

愛知県 蟹江町



いな饅頭

蟹江町は、愛知県の西南部に位置し、濃尾平野の南部沿岸の低湿地で町域全体が0m地帯となっており、町内には蟹江川・日光川・福田川など大小の河川が流れ町域に占める河川面積が総面積の4分の1を占める地域特性をもっています。

ご紹介する「いな饅頭」とは、「饅頭」という名から和菓子を連想しますが、これは「いな(ぼらの幼魚)」の外観を傷つけないよう

でじっくり煮込んだ特製の赤味噌にシイタケ、ギンナン、ユズなどの具を入れた「あん」を「いな」の腹に詰めるところから、名づけられたものです。さらに、これを「あん」がこぼれないように腹を破らずに焼き、仕上げます。蟹江町に伝わる独特の料理方法です。

「いな饅頭」が食べられる時期は、ちょうど蟹江祭が行われる9月の終わりから3月までで、特にボラのおいしい時期である10月から1月頃が食べごろです。

ぜひ一度、名古屋から電車で約10分の所にある蟹江町にお寄り下され、蟹江でしか食すことのできない名物郷土料理をご賞味ください。

※町内では下記の3店舗で食事ができますが、いずれも事前予約が必要です。

- ・いなまん Tel: 0567-95-2715
- ・丸河 Tel: 0567-95-1001
- ・湯元館 Tel: 0567-95-3454